



入湯税「百五十円」

大田区立田園調布中学校 三年 石田 眞咲

「税金」と聞くと自分にとっては関係ないものだ感じていた。消費税は自分の欲しいものや買いたいものを購入するときに自動的につくってくるものだ認識していて、なぜ消費税がかかるのか、消費税などの税金とはなにかもわからなかった。でも、今は違う。

小さい頃から私は気分転換をするためによく銭湯に行っていた。中学二年生の冬、大田区には銭湯が多いと知ったこと、きれいな銭湯を母が見つけてきたことで銭湯巡りにハマった。中学生になると大人料金になるため入浴料金は五百五十円になった。それに対して、料金表に書いてある六歳以上十二歳未満の入浴料金は二百円だった。大人と十二歳未満で料金が違うのはわかるけど、なぜ大人の入浴料金はきりがいい数字じゃないのだろうと行く度に思っていた。五百円ぴったりにすればいいのに、とも。そこで、どうして大人料金は五百五十円になるのかインターネットで調べてみた。

その理由は「入湯税」にあった。入湯税は温泉や銭湯に入るとかかる税金のことで、環境設備や施設を維持するためにある。一人一回の入浴につき百五十円だ。世界から見ると珍しい税金らしい。

今年の夏休み、姉と二人で行ったことのない銭湯に行った。その銭湯はご主人の努力を経てリニューアルされ、露天風呂や炭酸泉などの快適なお風呂があった。また、銭湯を利用する方の多くは年配の方のため、入口までをスロープにしたり、靴箱入れから室内までの段差をなくしたりとバリアフリーのための工夫がたくさんされている。私がその銭湯に行ったとき、いろんな人が銭湯内でも脱衣所でもロビーでもおしゃべりを楽しんでいた。

この体験から、今までは入浴料金を払うことイコール銭湯に入ることとして考えていたけれど、そうではないことに気付かされた。入浴料金に含まれる入湯税は、施設を維持するだけでなく、私達が快適に楽しく過ごすことができる場とするために払うものなのではないだろうか。たった百五十円の入湯税でも、町や地域の人々のために使われていて、自分に関係あるものだ実感した。

税金は入湯税だけでなく、私達の学校生活に必要なもの、例えば、机、椅子、パソコン、理科の実験器具、公園や図書館などの公共の施設やサービスにも使われている。「税金」と聞いて自分にとって関係ないものだと感じ、消費税しか知らなかった自分が恥ずかしい。この税の作文を書く機会に「税金」について知ることができてよかった。

『「税金」とはなにか。』と聞かれたら、「私達の生活を快適にし、豊かにするために欠かせないもの。」と答えたい。